

第42回静岡県 地方港湾審議会

説明資料

清水港港湾計画(改訂)



令和3年2月3日(水)
静岡県 交通基盤部
港湾局 港湾企画課

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

1

「長期構想」と「港湾計画(改訂)」

1 長期構想

目標年次：2040年

港湾における「長期構想」とは、港湾管理者が、おおむね20～30年の長期的視点から、港湾空間利用の基本的な方向性をとりまとめるものである。

2 港湾計画

目標年次：2030年代前半

「港湾計画」とは、長期構想を基に定める、おおむね10～15年後の取組をまとめた港湾法に基づく計画である。

港湾法(抜粋)

(港湾計画)

第三条の三 国際戦略港湾、**国際拠点港湾**又は**重要港湾**の港湾管理者は、**港湾の開発、利用及び保全並びに港湾に隣接する地域の保全に関する政令で定める事項に関する計画**(以下「**港湾計画**」という。)を定めなければならない。

3 国際戦略港湾、国際拠点港湾又は重要港湾の港湾管理者は、港湾計画を定め、又は変更しようとするときは、地方港湾審議会の意見を聴かなければならない。

※ 国際戦略港湾：(静岡県内なし)
国際拠点港湾：清水港
重要港湾：田子の浦港、御前崎港

スマート ガーデン ポート 清水

庭園のような『美』しい空間の中、
物流、エネルギー、災害、環境等の様々な社会課題に
対応可能な『知』を備え、
みなとを使ってよかった、清水で暮らして / 訪れてよかったと
実感できる”みなとまち”を創造する。

3

目次

I

清水港の現状と役割

II

清水港を取り巻く情勢と課題

III

港湾計画（改訂）の内容

I 現状 清水港背後地域の産業動向（製造業）

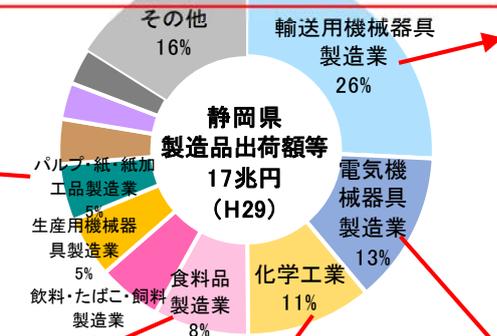
○ 静岡県の製造業の事業所数は全国5位、従業者数は全国3位、付加価値額は全国2位、製造品出荷額等は全国4位と我が国の中でも上位に位置する「ものづくり県」である。

【産業中分類別製造品出荷額等】 全国トップクラスの「ものづくり県」静岡

【パルプ・紙・紙加工品】 (億円)

順位	都道府県	出荷額	割合
1	静岡県	8,277	11.3%
2	愛媛県	5,710	7.8%
3	埼玉県	4,687	6.4%
4	愛知県	4,166	5.7%
5	北海道	3,929	5.4%
6	大阪府	3,383	4.6%
7	兵庫県	2,785	3.8%
8	栃木県	2,686	3.7%
9	新潟県	2,279	3.1%
10	茨城県	2,200	3.0%
その他		32,854	45.0%

取扱企業: 日本製紙、王子キノクロス等
製品: 紙 (国外出荷)



【輸送用機械器具製造業】 (億円)

順位	都道府県	出荷額	割合
1	愛知県	264,233	38.9%
2	静岡県	43,060	6.3%
3	神奈川県	40,902	6.0%
4	群馬県	36,693	5.4%
5	広島県	35,951	5.3%
6	福岡県	33,736	5.0%
7	埼玉県	25,083	3.7%
8	三重県	23,988	3.5%
9	東京都	15,830	2.3%
10	兵庫県	15,337	2.3%
その他		143,902	21.2%

取扱企業: ヤマハ発動機、本田技研工業等
製品: 船外機等 (国外出荷)

【食料品製造業】 (億円)

順位	都道府県	出荷額	割合
1	北海道	21,626	7.5%
2	埼玉県	18,794	6.5%
3	兵庫県	16,623	5.8%
4	愛知県	16,471	5.7%
5	神奈川県	15,983	5.5%
6	千葉県	15,228	5.3%
7	茨城県	14,719	5.1%
8	静岡県	13,691	4.7%
9	大阪府	12,401	4.3%
10	福岡県	9,829	3.4%
その他		132,872	46.1%

取扱企業: いなほ食品、キスコフーズ等
製品: 缶詰、ペットフード等 (国外出荷)

【化学工業】 (億円)

順位	都道府県	出荷額	割合
1	千葉県	23,195	8.1%
2	兵庫県	20,368	7.1%
3	大阪府	19,407	6.8%
4	神奈川県	19,359	6.8%
5	山口県	18,679	6.5%
6	静岡県	18,163	6.3%
7	埼玉県	16,838	5.9%
8	茨城県	16,017	5.6%
9	愛知県	12,167	4.2%
10	三重県	11,866	4.1%
その他		110,377	38.5%

取扱企業: 住友大阪セメント等
製品: セメント等 (国内出荷)

【電気機械器具製造業】 (億円)

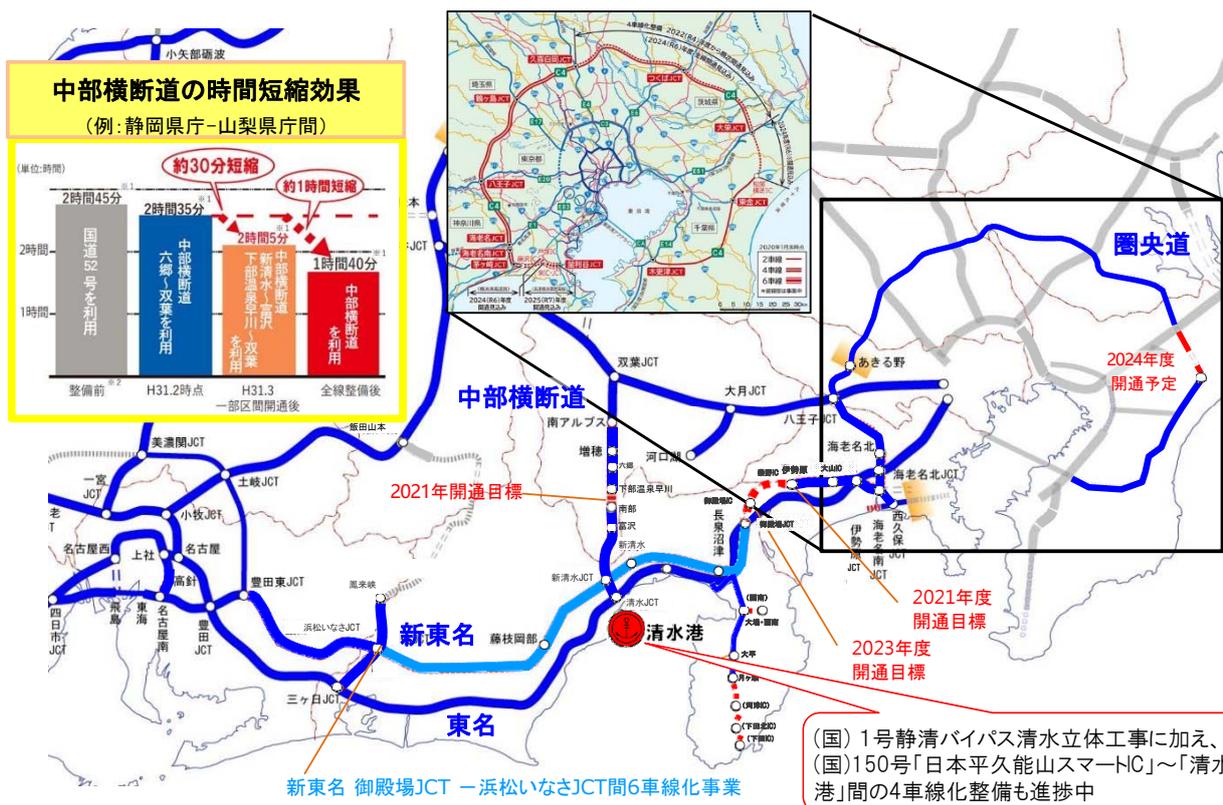
順位	都道府県	出荷額	割合
1	愛知県	22,449	13.0%
2	静岡県	22,021	12.8%
3	兵庫県	15,027	8.7%
4	大阪府	10,585	6.1%
5	栃木県	9,764	5.7%
6	茨城県	7,634	4.4%
7	東京都	7,441	4.3%
8	滋賀県	7,286	4.2%
9	神奈川県	6,898	4.0%
10	三重県	5,892	3.4%
その他		57,158	33.2%

取扱企業: 三菱電機、パナソニック等
製品: 洗濯機、冷蔵庫等 (国内外出荷)

資料: 平成30年工業統計、従業者4人以上 (経済産業省)

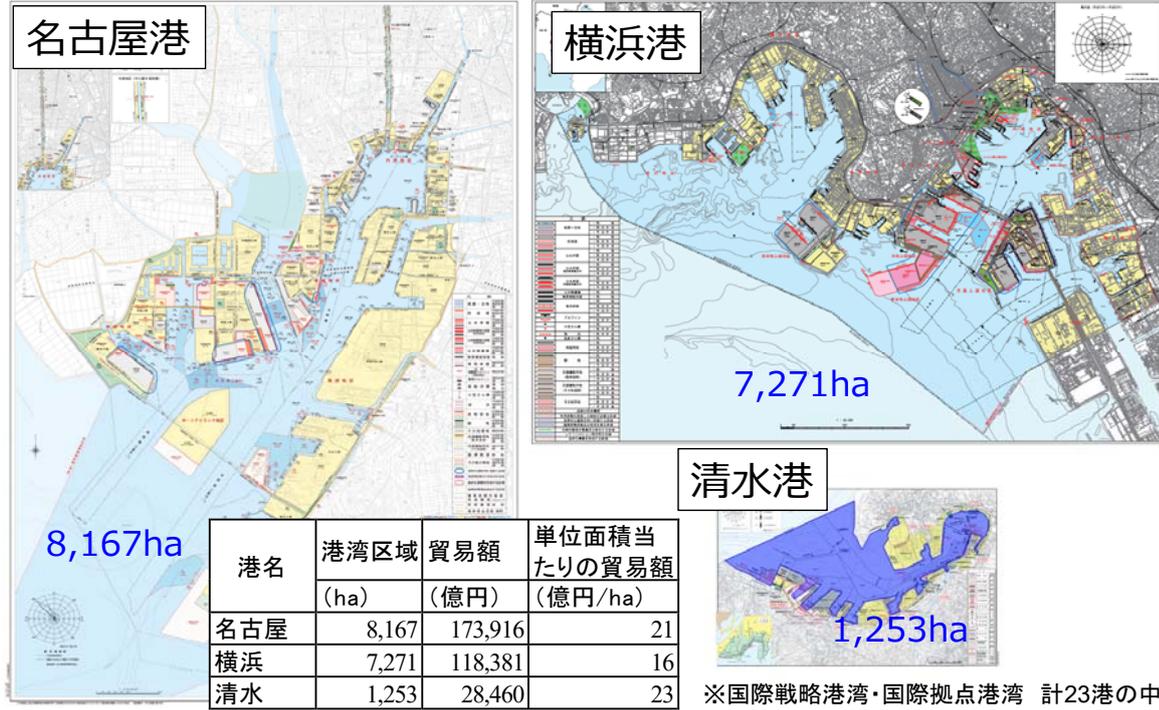
I 現状 物流・人流において極めて優位なロケーション

- 日本の中心に位置し、半径150km圏内には大経済圏である首都圏や中京圏をかかえる。
- 各圏域を結ぶ東名・新東名高速道路、中部横断自動車道、国道1号バイパスなどの幹線道路と直結する。



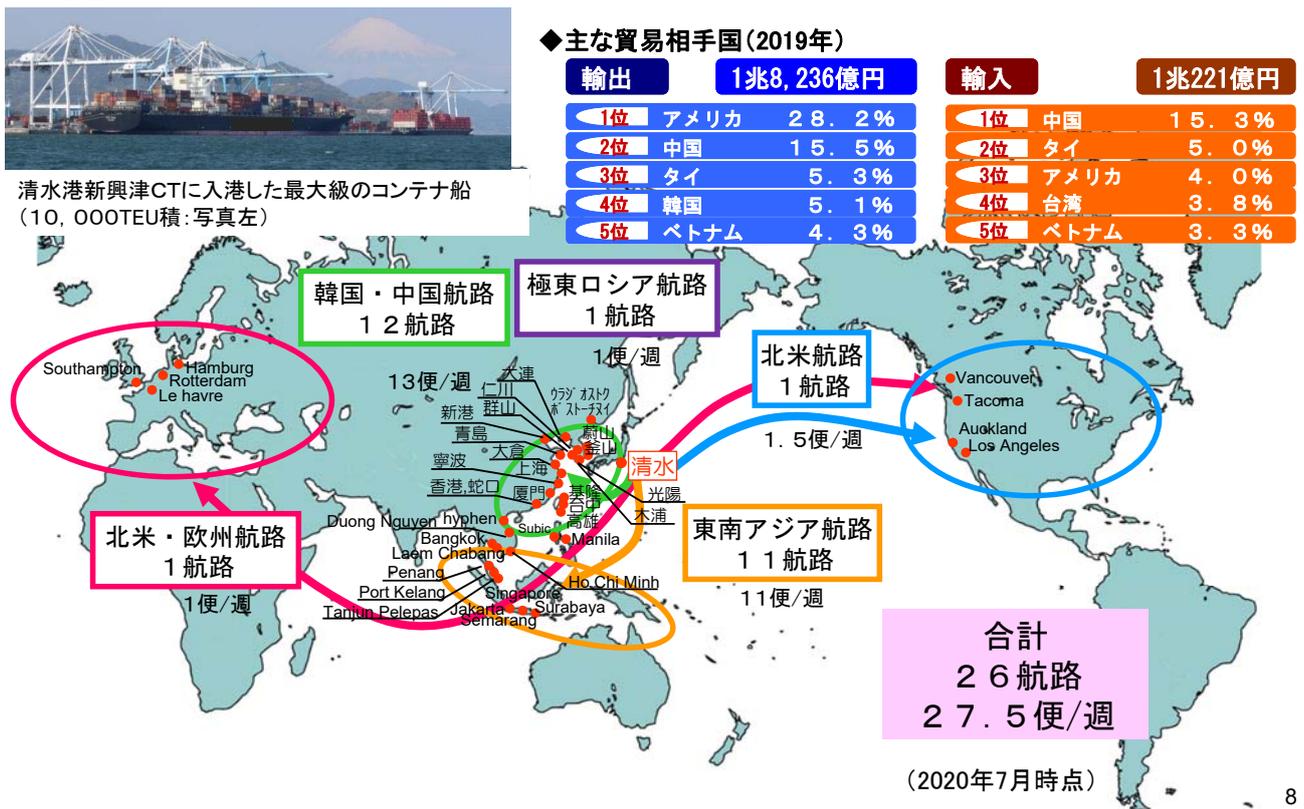
I 現状 全国トップクラスの単位面積あたりの貿易額

- 全国23の国際戦略港湾・国際拠点港湾の内、港湾区域と臨港地区の合計面積は最小の1,253ha (名古屋港、横浜港のおよそ1/6)
- しかし、単位面積あたりの貿易額は東京港に次ぐ2位の23億円/ha



I 役割 県内産業を支えるコンテナ輸送網の拠点

- 北米・欧州・アジア・中東など世界の主要な港と直結しており、26航路、27.5便/週が就航している。
- 清水港は三大湾以外で、北米航路と欧州航路が両方就航する唯一の港湾である。



I 役割 RORO船を活用した国内複合一貫輸送の拠点

- 2018年3月から清水港と九州・大分港間のRORO船定期航路がデイリー化したのをはじめとして、RORO船航路が充実し清水港と全国各地が定期航路で結ばれている。
- トラックドライバー不足によるモーダルシフトにより、RORO船の需要が高まっていくことが予想されている。

<川崎近海汽船(株)>

R1.7月時点	土	日	月	火	水	木	金	土
常陸那珂			●					
清水	■		●		■		■	
大分	●			●		●		●

●: 豊王丸 ■: 富王丸



<栗林商船(株)>

R1.7月時点	土	日	月	火	水	木	金	土
苫小牧(往航)	●							●
仙台(復航)		●						
東京(往航)			●					
東京(復航)				●				
清水(往航)					●			
清水(復航)						●		
大阪(復航)							●	

I 役割 農水産物の輸出拠点

- 農水産物輸出促進計画における輸出拠点港湾として、ROROネットワークを活かしたコンテナ船との連携施策を進めている。

清水港農水産物輸出促進計画

■ 高規格幹線道路網の整備を契機とした内陸部との連携

輸送時間の短縮による鮮度維持

トラックドライバーの労働環境改善

施設整備以外の取組
官民連携による
ポータルマーケティング
県西部・山梨県・長野県
荷主へのインセンティブ補助

2021年全線開通予定
新東名高速道路
東名高速道路

清水港 (輸出拠点港湾)

冷凍・冷蔵コンテナ輸出 (中国向け、北米、欧州向け)

農水産品輸出環境の強化

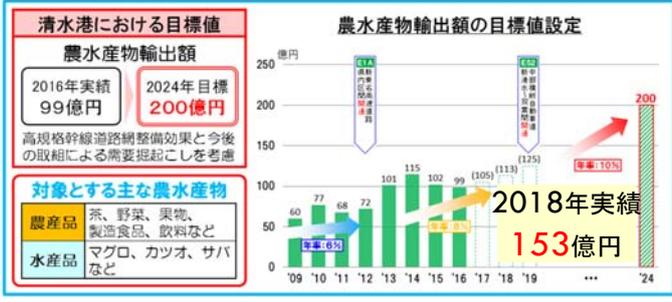
輸出拠点港湾：清水港

流通加工機能を備えた物流施設の整備

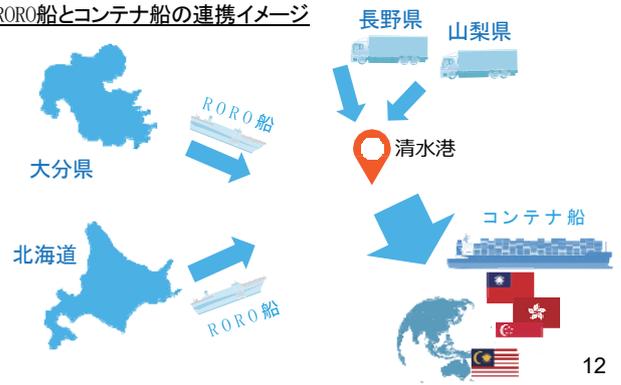
リーファーコンセント電源供給設備の増設

海外へ輸出

本計画の目標



RORO船とコンテナ船の連携イメージ



I 役割 「海原の日本庭園」と称される風光明媚な景観を形成

○ 霊峰富士を仰ぎ、三保松原をまとう「海原の日本庭園」と称される風光明媚な景観であり、日本三大美港の一つに数えられている。自然景観と人工景観が調和した美しい港の景観を形成している。



＜美しい港づくりに向けた官民連携の取組「清水港・みなと色彩計画」(H3～)＞

○ 建築物、工作物等を周辺環境に調和した色彩に塗り替え



I 役割 海洋研究・開発の拠点

○ 清水港には、海洋に関連した研究・開発機関や企業、大学等が集積している。
○ 令和元年には、マリンバイオテクノロジー研究開発拠点 (MaOI PARC) が整備された。



I 役割 「交流・賑わい」と「海洋レクリエーション」の拠点

- 富士山や三保松原など風光明媚な景観と、陸・海・空の交通拠点を有する恵まれた立地条件から、物流のみならず人流の交流拠点としての役割を担う。
- JR清水駅周辺から清水港の江尻地区、クルーズが寄港する日の出地区及び両地区を結ぶ軸の一角を「清水都心ウォーターフロント地区」と位置付け、平成24年度から本地区の活性化に取り組んでいる。
- 三保地区では、三保半島が天然の防波堤となり静穏な海域が形成されており、古くから海水浴場として親しまれ、近年はウインドサーフィン、ヨット、カヌー、SUPなど海洋レジャーの拠点になっている。

【日の出地区】国際旅客ターミナルを活用した交流・にぎわいの拠点



【江尻地区】みなとオアシスを活用した交流・にぎわいの拠点



【折戸地区】水面を活用したリゾートの拠点

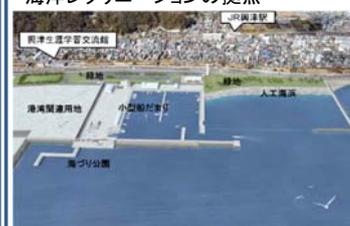
水面貯木場としての役割を終えた折戸湾では、水面の活用に向けた検討・取組が進む。



【三保地区】海洋レクリエーションの拠点



【新興津地区】整備中 海洋レクリエーションの拠点



I 役割 北東アジアクルーズの東日本における拠点

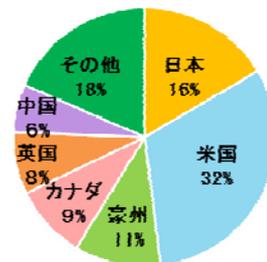
- 近年の世界的なクルーズ需要の増加に伴い、清水港のクルーズ船寄港数が年々増加している。
- 「北東アジアクルーズの東日本における拠点化」を目指し、クルーズ船の受入れ環境整備を進めている。
- 令和元年には、過去最高の41隻が清水港に寄港した。

清水港クルーズ船寄港数の推移



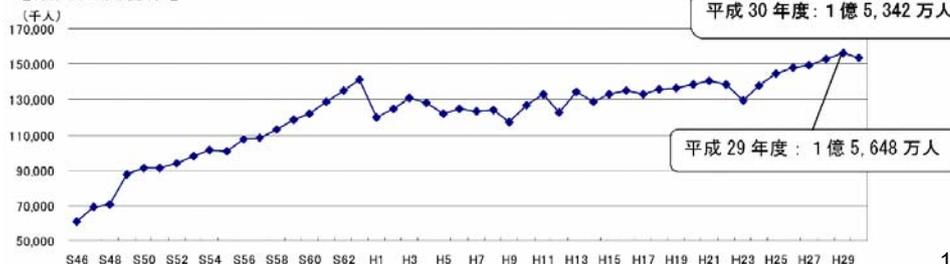
R元年 国籍別内訳 (%)

日本国籍 8,408人
外国籍 42,551人



R1.8 マジェスティック・プリンセス寄港 (清水港寄港最大船長)

【観光交流客数】



I 役割 スーパーヨットの拠点港化

- 近年、超富裕層が個人所有する「スーパーヨット」と呼ばれる船長24m以上の大型豪華クルーザー・ヨットが、日本のマリーナにも入港している。
- スーパーヨットの受け入れ時には、食費・娯楽費の他、燃料費・整備費・管理費などの維持管理費など、多額の消費が発生する。
- 清水港は、景観や地理的条件に恵まれ、受入環境の整備により、スーパーヨットの拠点港化が見込まれる。



地域	寄港回数(隻)	全長(m)	滞在期間(日)	主な船籍
北海道	2	24～36	2	ロシア、マーシャル諸島
神奈川県	1	45	10	不明
愛知県	3	33	7～21	パナマ
兵庫県	1	56.1	2～20	イギリス
広島県	1	31.5	13	不明
福岡県	4	24～55.8	不明	セントビンセント・グレナディーン、マレーシア、マーシャル諸島
長崎県	2	24～30	不明	ロシア
沖縄県	6	32.4～60	1～70	ロシア、ケイマン諸島、イングランド、モンゴル
	計20回	最大60m	最長70日	

出典：静岡県基盤部港湾局港湾企画課「県内港湾におけるスーパーヨットの寄港可能性調査結果」



実績内容	港湾名	回数	時期
寄港	清水港	1	R2.3
寄港の中止 (天候不良等)	熱海港	1	R1.9
	下田港	1	R1.9
沖泊しテンダーボートにより寄港	清水港	1	H31.4
	熱海港	1	H30.5
その他問合せ	下田港	1	H30.1
	清水港	1	R2.6

17

目次



清水港の現状と役割



清水港を取り巻く情勢と課題



港湾計画（改訂）の内容

II 清水港を取り巻く情勢

○港湾を取り巻く環境は、「物流・産業」、「交流・生活・環境」、「防災・危機管理等」などあらゆる分野で多様な変化が生じている。

アジア
ダイナミズム

少子高齢化
担い手不足

デジタル・トランスフォー
メーション
(DX)

脱炭素化

地震・津波、
高潮

清水港

- 全国トップクラスの「ものづくり」県
- 地理的な優位なロケーション
- 狭隘だが高効率な土地利用
- 「海原の日本庭園」と称される風光明媚な景観
- 海に関する教育・研究・産業機関の立地

公民連携

海洋研究

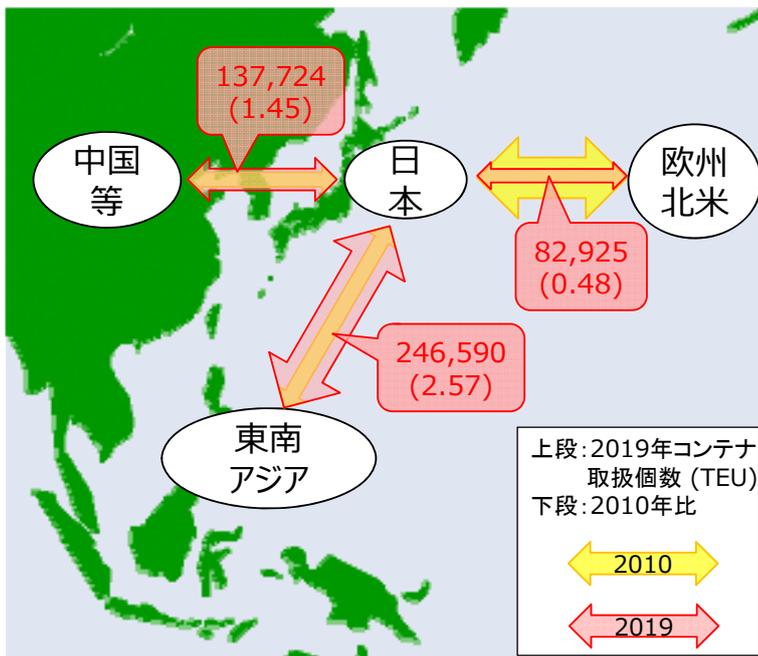
マリンレジャー

19

II 情勢 (1) アジアダイナミズム

○アジア(東アジア⇒東南アジア⇒南アジア)を中心として、海上輸送貨物量の増加が見込まれる。

■ 清水港航路別外貨コンテナ取扱実績(2019年)



※中国等: 中国、韓国、台湾

※TEU: 20フィートコンテナ1個分

■ 今後の人口推移予測

単位: 千人 下段: 2019年比

	2019	2030	2050
日本	126,860	120,758 (0.95)	105,804 (0.83)
欧州	747,183	741,303 (0.99)	710,486 (0.95)
北米	366,476	390,476 (1.07)	425,088 (1.16)
中国	1,433,784	1,464,340 (1.02)	1,402,405 (0.98)
東南アジア	662,012	727,294 (1.10)	794,002 (1.20)
インド	1,366,418	1,503,642 (1.10)	1,639,176 (1.20)

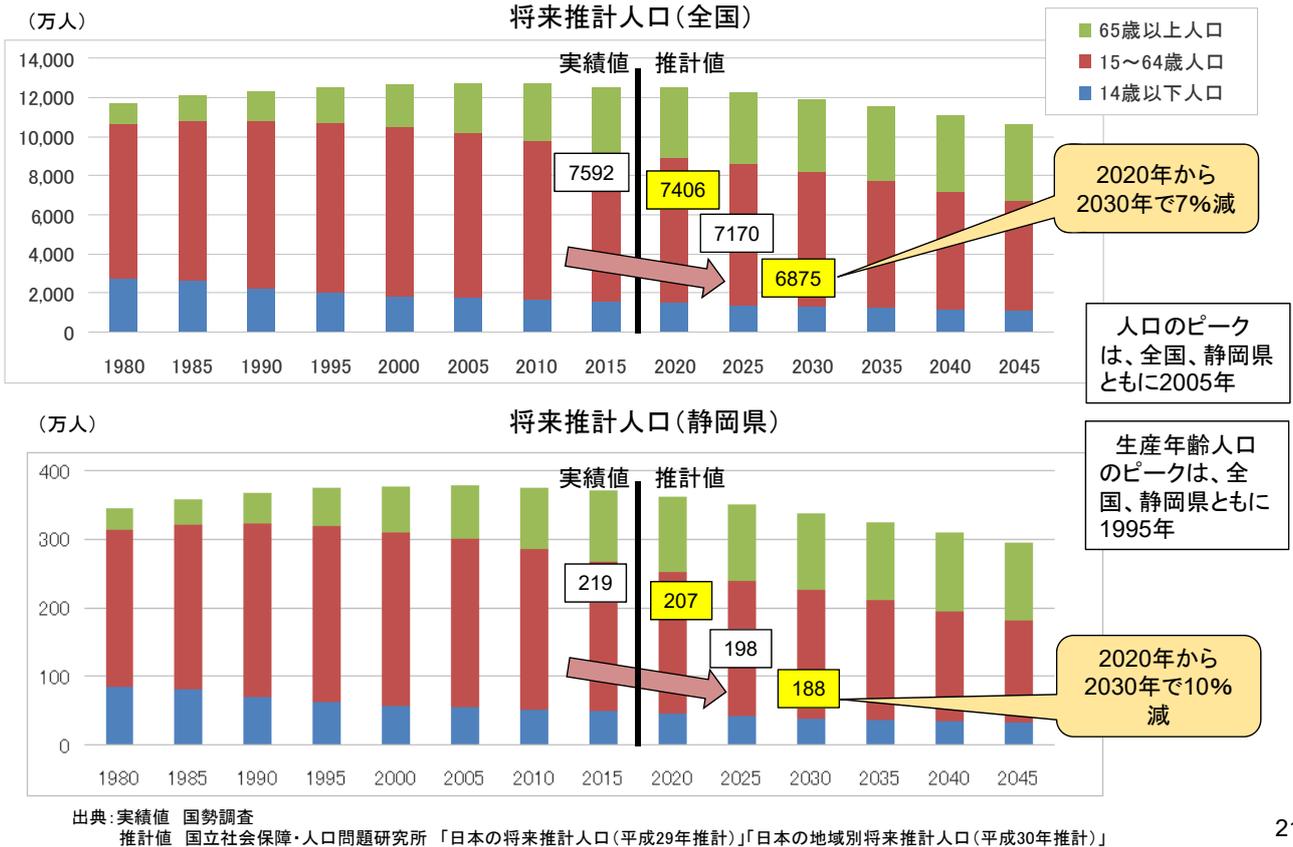
出典: (国際連合経済社会局
「World Population Prospects 2019」)

※北米: カナダ、アメリカ合衆国
※東南アジア: ブルネイ・ダルサラーム、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム

20

Ⅱ 情勢 (2) 少子高齢化・担い手不足

○少子高齢化等による労働力不足、トラックドライバー不足等によるモーダルシフトの進展が見込まれる。



21

Ⅱ 情勢 (3) デジタル・トランスフォーメーション(DX)

○情報通信技術の高度化による物流デジタル・トランスフォーメーションの進展が見込まれる。

■ デジタル・トランスフォーメーション(DX)

デジタル技術で、ビジネスモデルや働き方を変える。

【要件】

データとデジタル技術で、業務の仕組みやサービス、事業モデルを新しく変えて、ユーザーの不満や課題を解消する、そしてこれまで提供できなかった便利さを提供する。

【ポイント】

- ①機能・効率の向上だけでなく、ユーザーにとっての新しい価値を生むこと。
(価値創造)
業務の効率化だけが目的ではない
デジタル化はDXのプロセス、つまり手段
- ②デジタル技術を導入するだけでなく、実際に組織や顧客の課題を解決すること。
(課題解決)
- ③現場が実務を改善するだけでなく、トップが経営の変革をリードすること。
(経営の改革)
- ④業務プロセスの改善だけでなく、事業モデルを変革すること。
(事業モデルの変革)
- ⑤内部に閉じないで、組織や業界を横断して実践されること。
(横断的な実践)

→DXは、ITと経営の一体化で実現

出典: 独立行政法人情報処理推進機構HP

22

II 情勢 (4)脱炭素化

○港湾では、「港湾・物流の高度化」(デジタル物流システムの構築等)、「港湾を経由した次世代エネルギーの活用」、「港湾・空間の高度化」(洋上風力発電の導入等)などで、脱炭素化に貢献していくことが考えられる。

2015年 国際的な温暖化対策の枠組み「パリ協定」。

世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて1.5度以内に抑えるためには、2050年頃に世界の温暖化ガスの排出を「実質ゼロ」にする必要がある。

2019年 (12月) 欧州連合(EU)は、温暖化ガス実質ゼロに向けた行動計画「欧州グリーンディール」を発表。

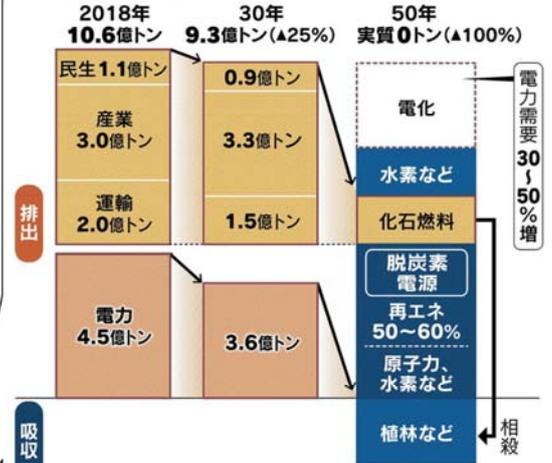
排出量を2030年までに1990年比で55%削減、2050年までに実質ゼロにする目標

2020年 (9月) 中国、習近平国家主席が、2060年までにCO₂排出量を実質ゼロにする目標を国連演説で表明。

2020年 (10月) 日本、菅義偉首相が、2050年までに温暖化ガス排出量を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言。

12月「グリーン成長戦略」決定(温暖化ガス排出量を2050年に実質ゼロにする工程表)

排出と吸収で温暖化ガス実質ゼロに (▲はマイナス)



出典:日本経済新聞(2020.11.11、2020.12.26)

23

II 課題 ～荷役待ちの滞船が顕在化～

○新興津国際海上コンテナターミナルで取扱う貨物量は、順調に増加している。

○大水深を要する新興津国際海上コンテナターミナルに大型船舶の荷役が集中し、荷役待ちの滞船が発生している。

新興津国際海上コンテナターミナル



荷役待ちの滞船が顕在化



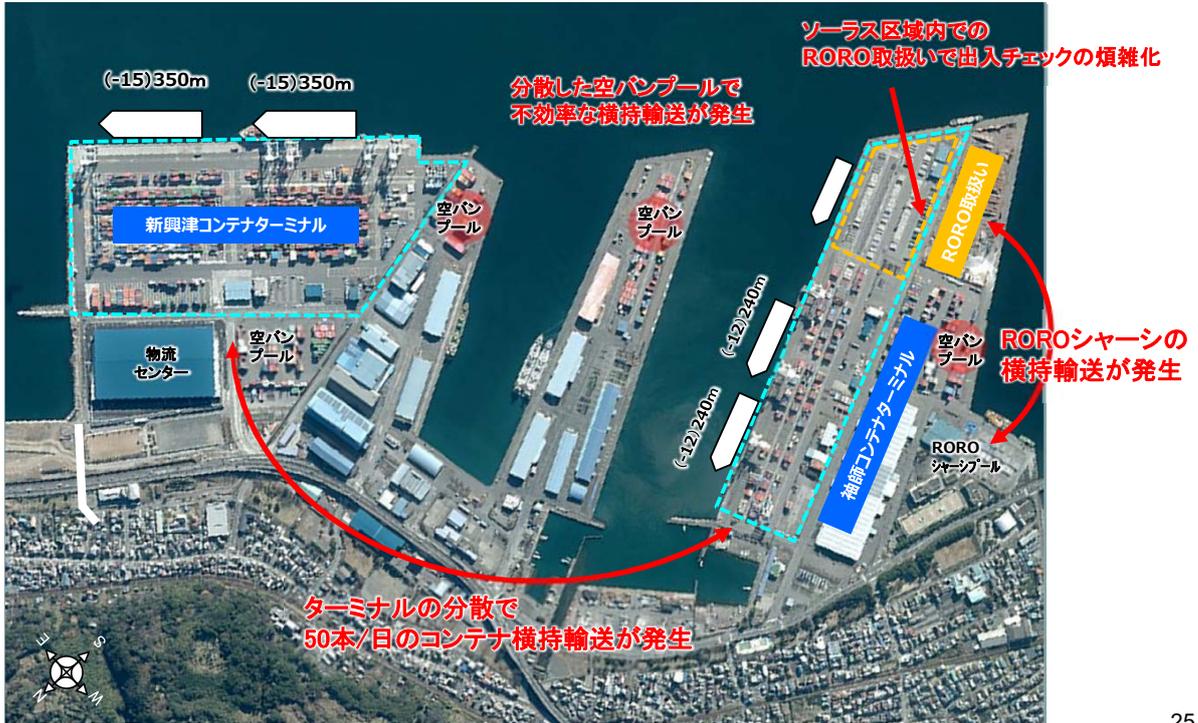
【荷役待ちの滞船について】

新興津ふ頭の岸壁延長等の不足により、コンテナ船が岸壁に着岸できず、沖待ち(岸壁の利用待ち)が発生している。

24

II 課題 ～コンテナターミナル機能の分散と混在貨物～

- コンテナターミナル機能や空コンテナ置場(空バンプール)の分散で、非効率なコンテナの横持輸送が発生している。
- コンテナターミナル内でのRORO取扱いにより、RORO用シャーシ置場が不足。非効率なROROシャーシの横持輸送が発生している。



25

II 課題 ～研究船と貨物船の混在利用の解消、研究資材置場の確保～

- 興津11-12号岸壁では、海洋研究開発機構(JAMSTEC)の地球深部探査船「ちきゅう」と貨物船が混在利用している。
- 研究資材置場が不足し、研究船から離れた場所に資材を保管している。



26

Ⅱ 課題 ～水面貯木場利用を廃止した折戸湾の活用～

- 水面貯木場としての役割を終えた折戸湾が遊休化している。また、一部施設の老朽化も見られる。
- 地元地域では、折戸湾を生かした地域活性化に向けた検討が進められている。



1990年(平成2年)の折戸湾

2018年(平成30年)の折戸湾



貯木場としての役割を終えた
水面を“賑わい”に利活用
する検討を進めている。

27

目次

- I 清水港の現状と役割
- II 清水港を取り巻く情勢と課題
- III 港湾計画（改訂）の内容

Ⅲ 計画内容 ～清水港が目指す姿～

役割

物流・産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 県内産業を支えるコンテナ輸送網の拠点 ● 国内輸送を支えるRORO船等の複合一貫輸送の拠点 ● 製紙産業を支えるパルプ材の輸入拠点 ● 農水産物輸出の拠点 ● 化学産業を支える化学薬品や石油類の輸入拠点 ● 鉄スクラップ等循環型資源の輸出拠点 ● 都市ガス供給源となるLNGの輸入拠点 ● 海洋研究・開発の拠点
交流・生活・環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 富士山と調和した美しい港湾景観の形成 ● クルーズ船・スーパーヨットの受入れ拠点 ● 「みなとまち」の形成、交流・賑わい拠点による地域振興 ⇒国際旅客ターミナルを活用した交流・賑わいの拠点 ⇒「みなとオアシスまぐろのまち清水」を活用した交流・賑わいの拠点 ⇒海洋レクリエーションの拠点 ⇒水面を活用したリゾートの拠点
防災・危機管理等	<ul style="list-style-type: none"> ● 大規模災害時における幹線貨物輸送機能と緊急物資輸送機能 ⇒県内6港ある防災拠点港湾の1つとして、静岡県内の緊急物資需要の受入れを担う。 ⇒震災後、速やかに港湾物流の機能を回復 ⇒伊豆半島の被災者の受入れ拠点としての機能を担う。

【今回計画】

目標年次：2030年代前半

利用者が使いやすさを実感できるみなと

- 次世代高規格コンテナターミナルを形成
- 次世代高規格ROROターミナルを形成
- バルク貨物取扱機能を強化

憧れ、何度も訪れ、滞在したくなる美しいみなとまち

- 各地区で交流・賑わい拠点を創出
- 各拠点間のアクセス向上により地域内循環を強化

訪れ、働き、暮らす人々が安全・安心を感じられるみなとまち

- 円滑な生活物資の緊急輸送の機能を確保
- 速やかに物流を回復する機能を確保

課題及び要請

有識者(委員会等)	革新技術を導入した効率的な物流、RORO貨物への対応、人流動線の確保、防災対策、港湾景観の形成、老朽化対策、海洋研究の誘致
清水港の課題	荷役待ちの滞船解消、船舶大型化と新たな貨物への対応、バルク貨物の取扱機能向上、用地確保、研究船と貨物船の混在利用の解消
県民(パブコメ等)	防災対策の強化、水際線に憩い空間の創出、美しい景観の創造、緑の創生、「みなとまち」づくりの推進
企業(ヒアリング)	船舶大型化、新規取扱貨物、用地・荷捌きスペース確保、高潮対策、シャーシ・空コンテナ置場確保
漁船・小型船舶(ヒアリング)	うねり・静穏度対策、高潮対策、航路泊地の埋没対策、防犯対策
関連計画	北東アジアクルーズの東日本における拠点化、国際海洋文化都市・清水の推進、次世代型エネルギーの推進と地域づくり

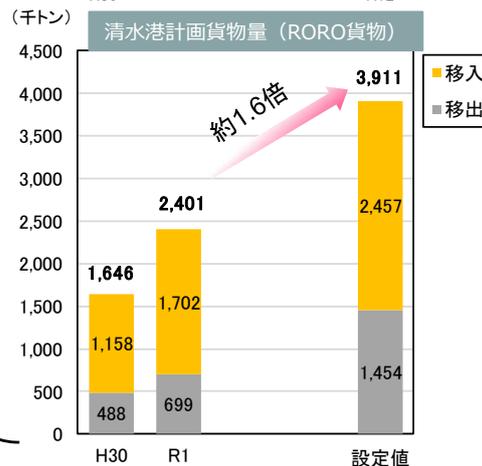
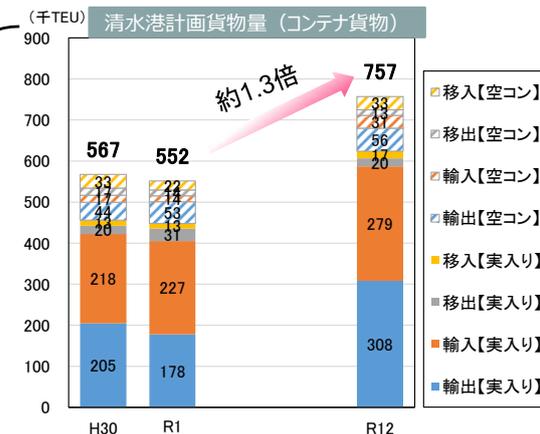
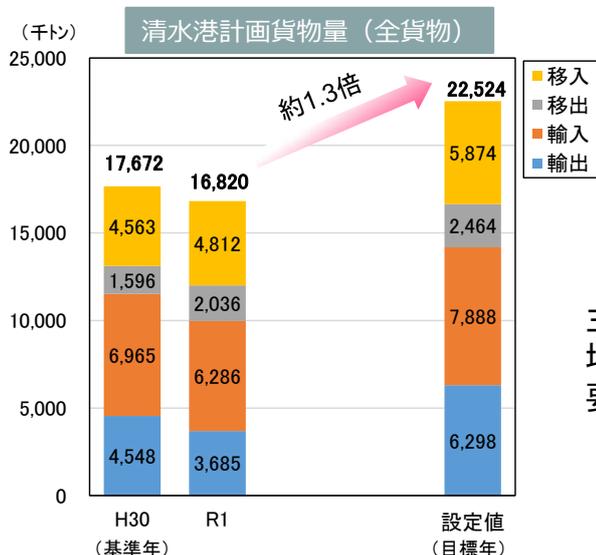


Ⅲ 清水港港湾計画（改訂）の概要



Ⅲ 計画内容 ～将来貨物量の推計～

- コンテナ貨物は、道路網の充実やアジアを中心としたGDPの伸びにより、産業機械や自動車部品、電気機械等の輸出及び輸入貨物の増加が見込まれる。
- モーダルシフトに伴いRORO貨物需要の増加が見込まれる。



主な増加要因

Ⅲ 計画内容 ～【物流・産業】コンテナ機能の集約・再編による国際コンテナターミナル整備～

- 新興津地区と袖師地区で分散して取扱っているコンテナ貨物を新興津地区に集約し、直線1,260mの連続4バースを備えた高規格コンテナターミナルへの再編を計画する。
- 大型輸入パルプ船も利用できる多目的なターミナルとし、製紙産業を支えるパルプ材の輸入拠点化も図る。
- 荷役機械の遠隔操作化やスマートゲートの導入を目指し、労働環境の改善や物流の効率化を図る。

【新興津埠頭・袖師第1埠頭】



【現況】
岸壁延長等：4バース(1,180m)
取扱貨物量：567千TEU

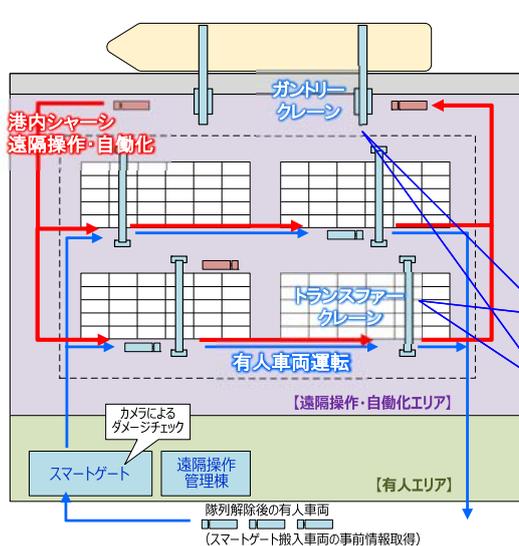


【将来】
岸壁延長等：4バース(1,260m)
取扱貨物量：757千TEU

Ⅲ 計画内容 ～【物流・産業】次世代高規格コンテナターミナルの形成～

- 世界のコンテナ取扱個数上位20港の大水深コンテナターミナル(水深16m級)における荷役機械の自動化導入状況は75%(検討中含む)(出典:国交省資料)
- 我が国においては、名古屋港飛島ふ頭で遠隔操作を導入済み。
- 清水港は、地震災害等地域の特性を踏まえた最適なAIターミナルを実現することで、平時における物流の効率化、労働環境の改善とともに、災害時における迅速な復旧の両立を目指す。

【参考】新興津コンテナターミナルの将来イメージ



AIターミナルの実現

- トラック隊列走行に対応するスマートゲート
- 地震災害にも備えた最適な港湾荷役システム
 - ▶(平時)自動化・遠隔操作による効率化
 - ▶(災害時)手動運転による冗長化

データ連携基盤によるCyberPortの実現

- 港湾情報や貿易手続情報の完全電子化
- 蓄積データによる顧客やサプライヤーとの間のスマート物流(SCM、DCM)の構築

イメージ
オペレーターが複数のモニターを操作している様子。

Ⅲ 計画内容 ～【物流・産業】3バースを有するROROターミナルの整備～

- 人口減少に伴うドライバー不足に対応するため、RORO船の3隻同時着岸が可能な内貿RORO専用岸壁3バースを整備する。

【袖師第1埠頭】



- 【現況】**
- ①清水-大分航路 : デイリー
 - ②清水-苫小牧航路 : 週2便



- 【将来】**
- ①清水-九州方面航路 : デイリー(2便)
 - ②清水-北海道方面航路 : デイリー

Ⅲ 計画内容 ～【物流・産業】ROROとコンテナの連携による効率的な輸送手段の構築～

○ROROターミナルとコンテナターミナルの近接性及び背後交通網との結節性の良さを生かし、加工保管組立等の機能を備えたロジスティクスセンターを整備することにより、通関手続き、積替に合わせ、付加価値を生むワンストップサービス等など、利用価値の創出を目指す。

ROROとコンテナの連携による新たなサプライチェーンの構築

【付加価値イメージ】

○ワンストップサービス（止めない物流）

- ▶ 港（海外との結節点）の在庫拠点化による輸送効率UP
- ▶ 冷凍冷蔵技術（冷凍冷蔵倉庫、リーフコンテナ）
- ▶ 精度の高い検品、仕分け、梱包・組立等の流通加工

○多様な輸送手段による代替輸送の確保

- ▶ 状況に応じた海上コンテナ輸送、RORO輸送、陸上輸送の切替

【例1：ワイン等】

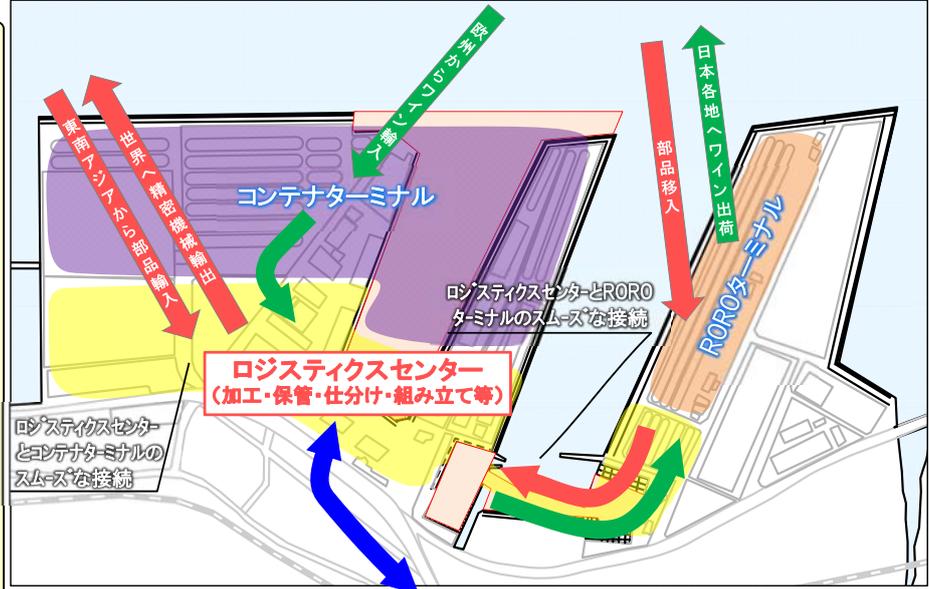
- ▶ E Uからコンテナで輸入
- ▶ 精度の高い検品、ラベリング、仕分け、梱包
- ▶ RORO船から全国へ出荷

【例2：家電製品等】

- ▶ 安価部品を東南アジアからコンテナ輸入、高価な精密部品をROROで移入
- ▶ 港内で組立し商品化
- ▶ コンテナで世界に製品出荷

港で組立てられた商品が全世界へ

港で加工された商品が日本全国へ海上輸送



県内や内陸各県への出荷、部品供給等
高速道路隣接のインランドデポや物流拠点との連携

Ⅲ 計画内容 ～【物流・産業】袖師第2埠頭の延伸～

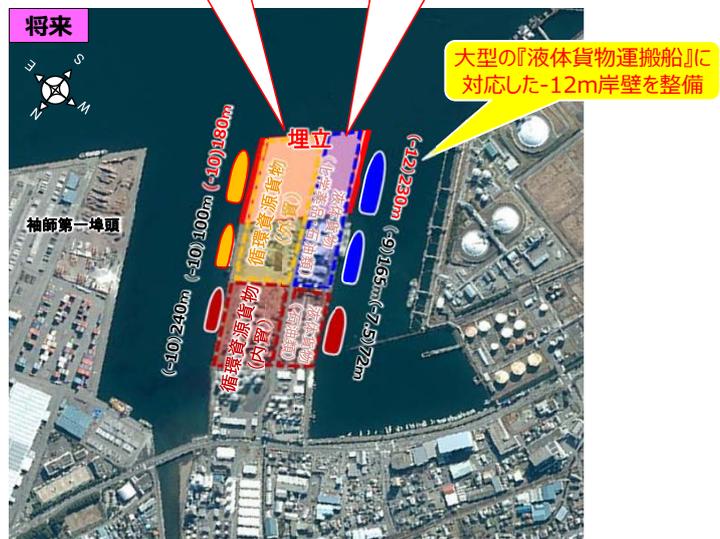
○バルク船の大型化に対応するとともに取扱拠点の集約化により、外内貿バルク取扱機能の強化を図る。

【袖師第2埠頭】

現況



将来

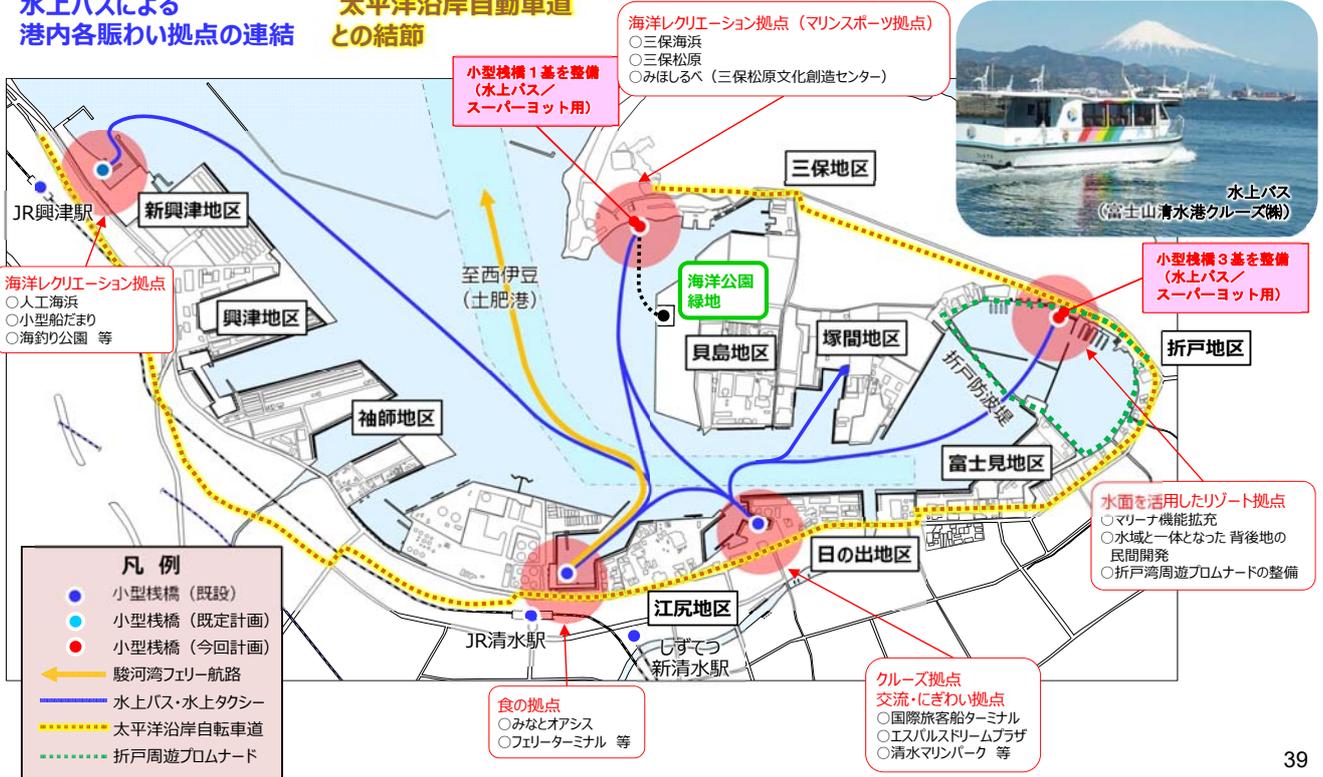


Ⅲ 計画内容【交流・生活・環境】多様な移動サービスによる各拠点間のアクセス向上

- “賑わい”等の各拠点間の移動の利便性向上を図るため、折戸地区及び三保地区において、水上バスの発着場となる棧橋を整備する。
- アクセスの向上により、来訪者の各拠点間の回遊性を高める。

水上バスによる 港内各賑わい拠点の連結

太平洋沿岸自動車道 との結節

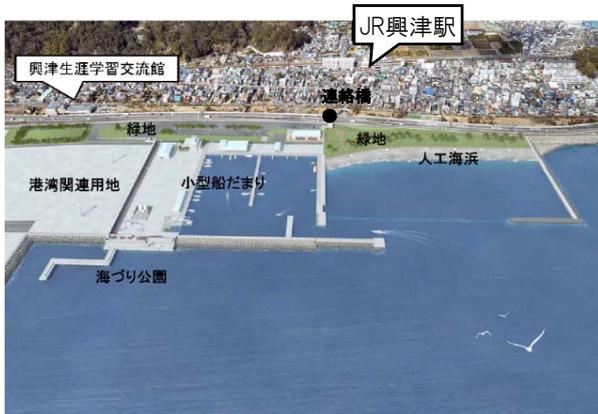


Ⅲ 計画内容【交流・生活・環境】海洋レクリエーション拠点の形成 (新興津地区)

- 新興津地区は、人工海浜、海つり公園を整備し、磯遊びや釣りなど海洋レクリエーションの振興を図るとともに、連絡橋により地域とつなぐことで、農水産品の直売など地域や道路利用者の交流の場を創出する。

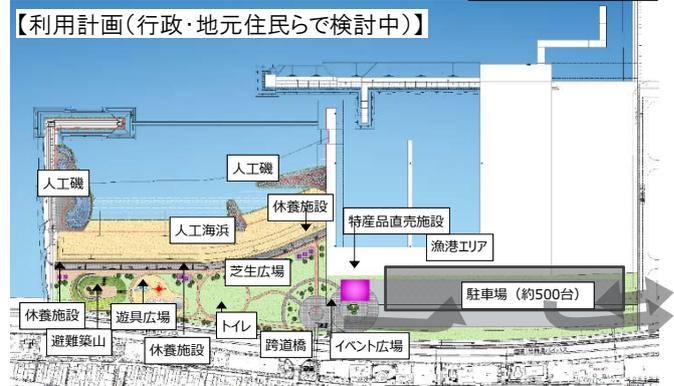
【新興津地区】

新興津地区の完成イメージ



施設利用計画

新興津海つり公園



釣り桟橋
(イメージ)



農水産品の直売
(イメージ)

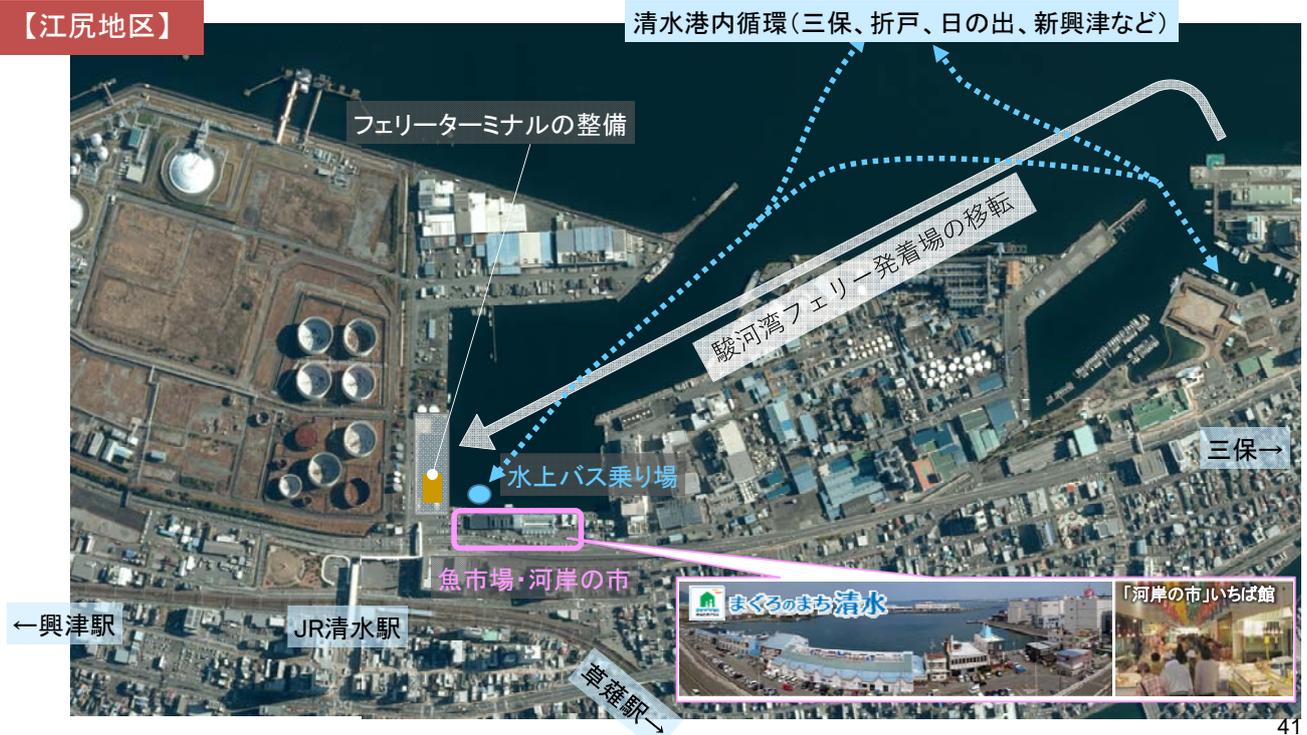


磯遊び
(イメージ)

Ⅲ 計画内容【交流・生活・環境】“食の拠点”を活用した交流・賑わいの創出（江尻地区）

- みなとオアシスの核施設である清水魚市場「河岸の市」が賑わいを見せており、冷凍マグロ等の販売や鮮魚を味わうことができる観光スポットとして多数の観光客が来訪している。
- JR清水駅と隣接する江尻地区へ駿河湾フェリーを移転することで、乗降客の利便性を向上させるとともに、西伊豆地域と観光等での連携を強化する。

【江尻地区】



Ⅲ 計画内容【交流・生活・環境】水面を活用したリゾートの形成（折戸地区）

- 折戸湾周辺の既存サイクリングロードに加え、折戸防波堤や湾内護岸に緑道を設置するとともに、駐車スペースを備えた緑地を配置し、周遊可能な「水辺のプロムナード」を整備する。
- 緑道の整備や土地利用の計画の変更により、背後地の民間開発を促し、人々が集まる良質なリゾートを形成する。

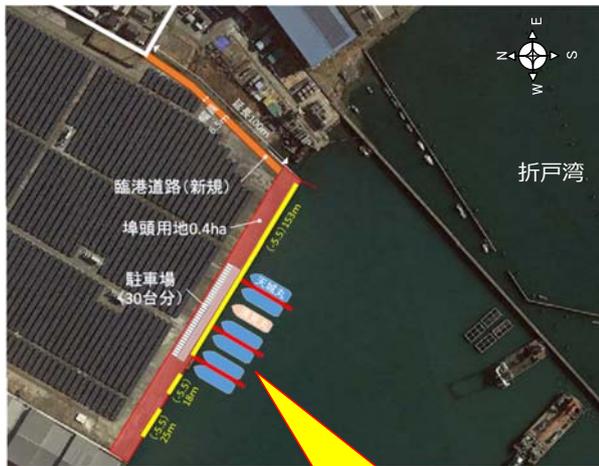
【折戸地区】



Ⅲ 計画内容【交流・生活・環境】作業船やプレジャーボートの適正配置

- 港内に点在しているタグボートは、水域の静穏性の確保と利便性の向上のため、塚間地区に集約する。
- 港内に点在するプレジャーボートは、暫定係留を解消と船舶の航行安全を確保するため、折戸地区の栈橋1基を整備する。

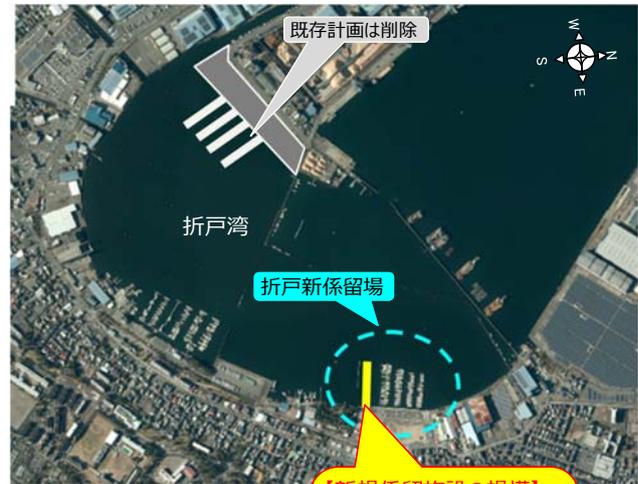
分散したタグボートの集約



【新規係留施設の規模】

- ・浮栈橋 3基
- ・収容隻数 7隻
- ・栈橋延長 45m/基
- ・最大水深 4.5m

プレジャーボートの集約



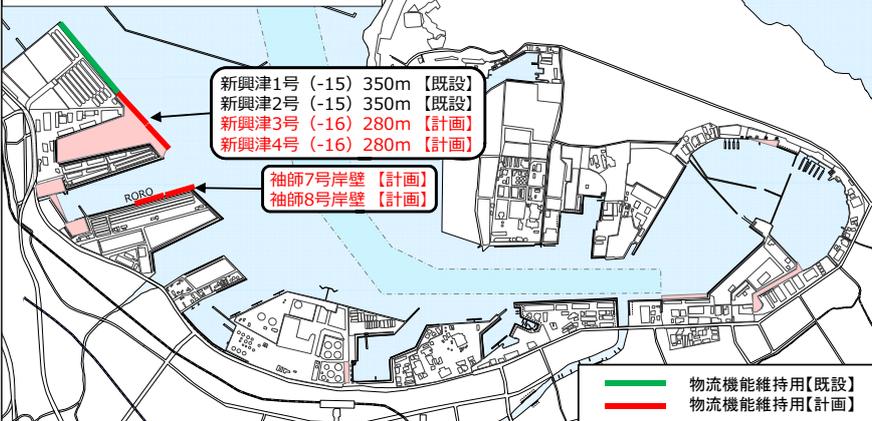
【新規係留施設の規模】

- ・栈橋 1基
- ・収容隻数 47隻
- ・栈橋延長 118.5m
- ・最大水深 1.65m

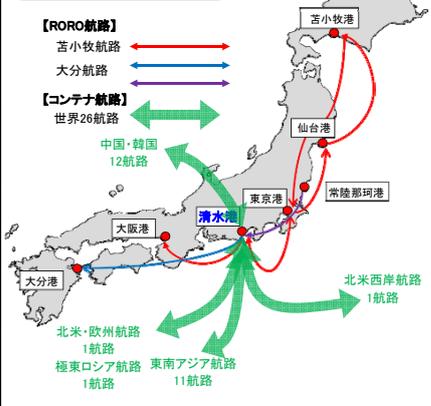
Ⅲ 計画内容 ～【防災・危機管理等】耐震強化岸壁の整備（物流機能の維持）～

- 大規模地震が発生した場合に速やかに基幹的な物流網を回復するため、既設の物流機能維持用の耐震岸壁2バースに加えて、新興津と袖師地区に新たに耐震強化岸壁4バースを整備する。
- 東日本大震災等では、RORO船や内航フェリーが救援・復旧活動の一翼を担ったことから、それらの活動を行う船舶の受入対策としても耐震強化岸壁の整備は極めて重要。

耐震強化岸壁の整備計画（幹線貨物輸送用）



速やかに物流網を回復



RORO船を活用した副次的利用・効果 - RORO船による支援活動

■ 熊本地震や西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震などで生活支援活動を行ったフェリー「はくおう」



出典：防衛省HP



出典：防衛省HP

■ 東日本大震災におけるフェリーやRORO船による貨物輸送活動

出典：中部地方整備局・中部運輸局資料

Ⅲ 計画内容 ～【防災・危機管理等】耐震強化岸壁の整備（住民の緊急避難用）～

- 伊豆半島は、大雨時の土砂崩れ等により道路の寸断がしばしば発生している。令和2年7月の西伊豆町での土砂崩れでは、渡船により児童の海上輸送を行っている。大規模災害（地震・津波）発生時においても同様の事態が発生し、集落が孤立する可能性がある。
- 東日本大震災等では、RORO船や内航フェリーが救援・復旧活動の一翼を担ったことから、それらの活動を行う船舶の受入対策として、耐震強化岸壁の整備は極めて重要である。

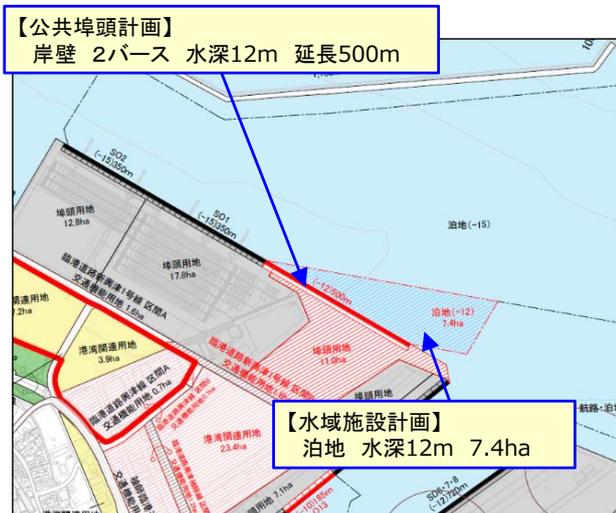


Ⅲ 計画内容 ～新興津・興津地区の計画図～

- コンテナ取扱量の増加に対応した大水深を要する国際コンテナターミナルの整備
- パルプ船の大型化に対応した岸壁の整備
- 大規模災害時の物流機能の継続的な利用を目的とした耐震岸壁の整備

【既定計画】

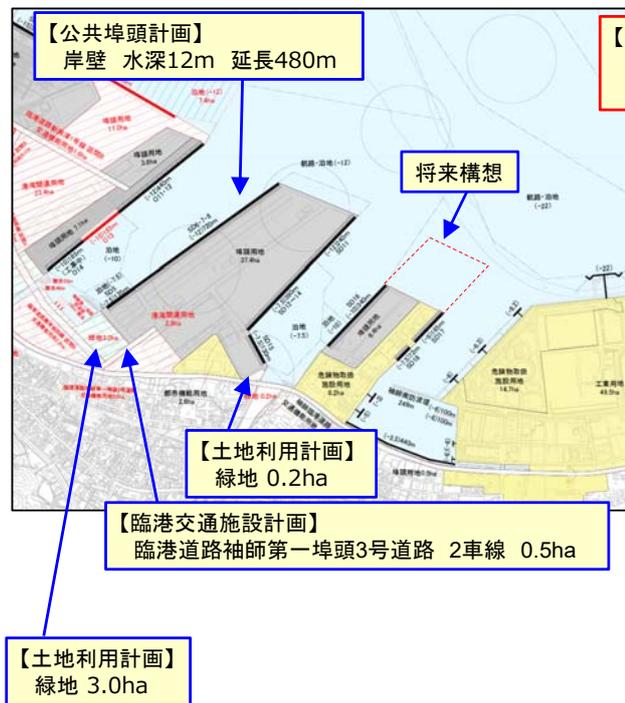
【今回計画】



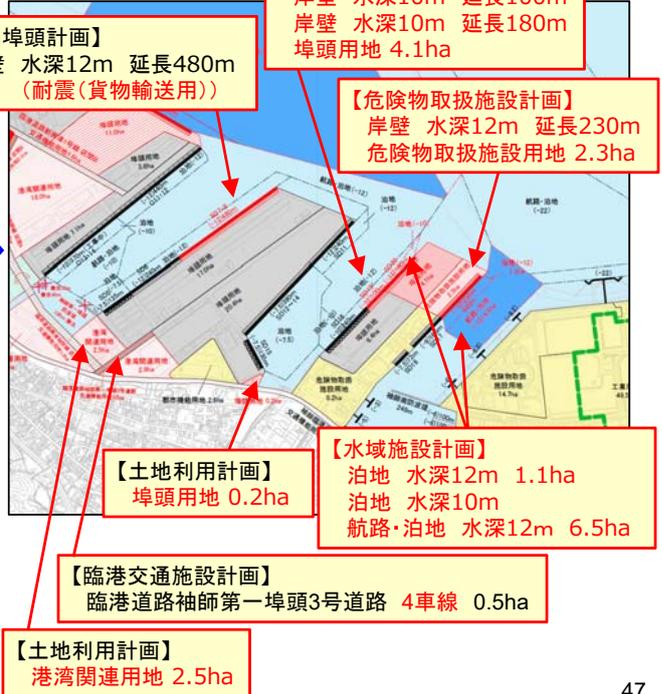
Ⅲ 計画内容 ～袖師地区の計画図～

- 内貿ユニットロード貨物需要の増大に対応するための、RORO専用ターミナルへの転換
- 大規模災害時の物流機能の継続的な利用を目的とした耐震岸壁の整備
- 袖師第2埠頭には、循環型資源や化学薬品、石油類を集約する。

【既定計画】



【今回計画】



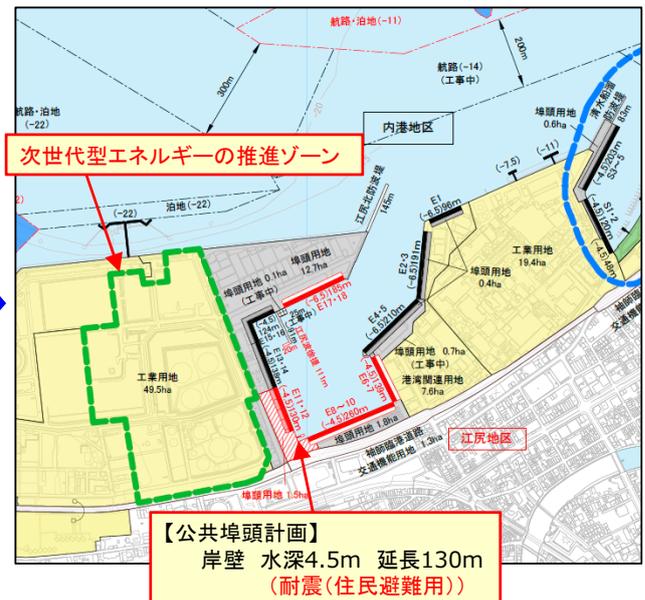
Ⅲ 計画内容 ～江尻地区の計画図～

- 住民の緊急避難用岸壁に位置付け、耐震岸壁として整備
- 「次世代型エネルギーの推進ゾーン」と位置付け、ここから港全域の脱炭素化に向けて取り組んでいく

【既定計画】



【今回計画】



Ⅲ 計画内容 ～日の出地区の計画図～

- H29.11清水港港湾計画(一部変更)におけるクルーズ関連計画を継続
- 賑わい空間の創出と幹線道路へのアクセス向上を図るため、臨港道路及び緑地を追加

【既定計画】



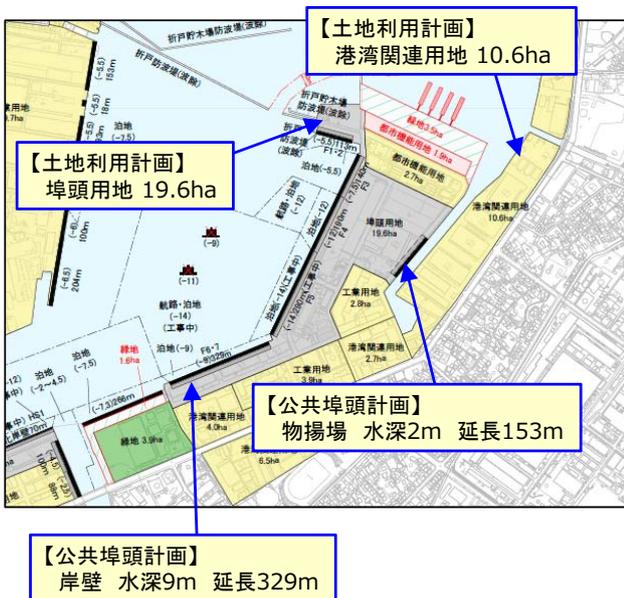
【今回計画】



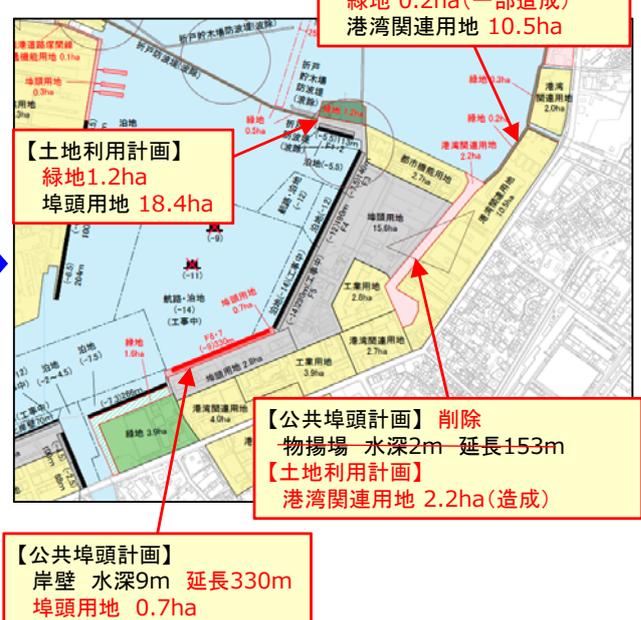
Ⅲ 計画内容 ～富士見地区の計画図～

- 不足する荷捌きスペースを確保するため、既存の岸壁を前出しする。
- 取扱貨物の多様化に伴う物流用地の不足を解消するため、村松運河を埋立て、港湾関連用地を整備

【既定計画】



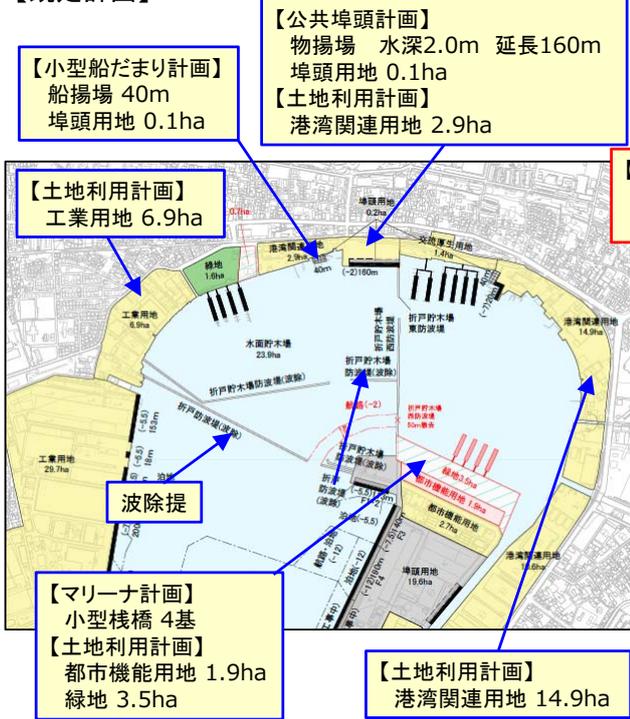
【今回計画】



Ⅲ 計画内容 ～折戸地区の計画図～

- 港内に点在するプレジャーボートの暫定係留を解消するため、棧橋を再編
- 水面を活用したリゾート形成をするため、折戸湾を周遊できる「水辺のプロムナード」や 水上バス・スーパーヨット用の棧橋を整備
- 賑わい空間を創出するために土地利用計画を変更

【既定計画】



【今回計画】



Ⅲ 計画内容 ～塚間地区・貝島地区・三保地区の計画図～

- 塚間地区では、港内に点在するタグボートを集約
- 貝島地区では、海洋研究船や探査船等が係留可能な岸壁を整備
- 想定される最大船舶である地球深部探査船「ちきゅう」が係留可能な岸壁を整備
- 三保地区では、水上バスとスーパーヨットが利用できる小型棧橋を整備

【既定計画】



【今回計画】

